

音楽科学習指導案

三次市立三和小学校 久保 範和

1. 題材名 『変奏曲を作曲しよう』

2. 学 年 三次市立三和小学校 第5学年 38名

3. 題材目標

- (1) 変奏曲づくりに関心をもち、自分自身の感じ方や考え方を生かしながら、友達と協力して変奏曲づくりに取り組むことができる。(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 変奏曲の特徴を感じ取り、コンピュータを活用し、音色、リズム等の表現を工夫している。また、他のグループの変奏曲を聴き、その工夫を感じ取る。(音楽的な感受や表現の工夫)
- (3) 自分たちのグループで作曲した変奏曲を、楽器の編成を工夫して表現できる。(表現の技能)
- (4) 変奏曲の特徴を感じ取りながら、聴取できる。(鑑賞の能力)

4. 題材について

- 本題材は、誰もが簡単に扱える音楽ソフトを活用し、様々なリズムや音色を組み合わせた変奏曲の作曲を通して、豊かな表現方法を学ぶとともに音楽を作り出す喜びを味わわせることをねらいとして設定した。

近年、学校教育において情報教育の推進が叫ばれ、各学校にコンピュータが設置されるようになった。コンピュータは高い情報処理能力だけでなく、目的にかなったソフトウェアを利用すれば、誰でも簡単にその目標が実現できる便利なものである。音楽教育の中でのコンピュータの存在を考えると、電子音楽による音の制御やシンセサイザ等での器楽演奏、誰もが簡単に扱える音楽ソフトの活用等が挙げられる。

前題材における変奏曲「ます」は、変奏毎に主題がいろいろな楽器に受け継がれ、リズムや音色、曲想が変わっていく変奏のおもしろさや曲の構成等を感じ取り、自分たちで変奏曲を作曲するときの工夫に生かせる教材である。それを受け本題材では、変奏曲のおもしろさを味わわせ、親しみのある旋律をもとにして、変奏曲を作曲させることをねらい、『きらきら星(フランス民謡)』を教材曲として扱う。『きらきら星』は、低学年時に学習し、その後発声練習時にも活用する等、児童が慣れ親しんだ曲である。また、どんな『きらきら星』にするかという具体的なイメージも持ちやすく、変奏曲として作曲するとき、旋律やリズム、拍子の変化がつけやすい曲である。

- 本学級の児童は、とても素直で明るい雰囲気がある。音楽活動にも意欲的に取り組む児童が多い。歌唱では、合唱活動を好み、器楽では、リコーダー合奏を中心にお互い教え合いながら意欲的に取り組んでいる。音楽科においてコンピュータ活用は初めての経験ではあるが、他教科等では、興味・関心を示しながら取り組んでいる。
- 指導にあたっては、変奏のおもしろさを味わい、作曲していく過程で、意欲的・創造的な活動ができるよう、「自分たちだけの変奏曲」づくりを支援していきたい。また、グループ活動により、コ

ンピュータの操作に苦手意識を持っている児童に対して、グループリーダーが中心となり、お互い協力し合って活動ができるよう支援していきたい。

5. 教材

『きらきら星』(フランス民謡)

6. 本題材におけるIT活用とその有効性について

- (1) 変奏曲のおもしろさを味わい、親しみのある旋律をもとにして、変奏曲作りができるよう、フリーソフトウェア“Finale Note Pad 2004(ベクター)”を使って、「きらきら星」の旋律やリズム、拍子、音色等をアレンジし、自分たちだけの『きらきら星変奏曲』を作曲し、楽器で演奏する。
- (2) コンピュータ画面に音符を入力(貼り付け)することで、その旋律が即時に音となって再生され、同時に楽譜として残すことができ、他のグループとの交流や合奏時に役立つ。
- (3) 入力した音の修正や加工等が聴きながら何度でもできる。
- (4) コンピュータの演奏を確かめながら、自分たちの実際の演奏時の参考にすることができる。
- (5) 出来上がった変奏曲の楽譜や、自分たちの演奏ビデオをプロジェクタで拡大投影することによって、見る・聴く活動を共有化することができる。

7. 指導計画と評価計画(4時間扱い)

次	学習内容	時	学習活動	評価
1	音色やリズム等の工夫	1	・フリーソフトウェアを活用し、簡単なメロディー『ちょうちょう』を入力する。 ・入力したメロディーの音色、リズム等に変化をつける。	・メロディーのイメージに合わせ、音色やリズムを工夫したか。
2	創作活動(変奏曲を作曲する)	2 3 本時	・イメージに合ったタイトル、作曲者名等を入力し、音色を決め、『ヒントカード』を使って変奏曲を作曲する。 ・中間発表をし、他のグループのよさを参考にし、自分たちの変奏曲に生かす。 ・修正や加工をし、変奏曲を仕上げる。	・グループで協力して作曲できているか。 ・他のグループのよいところを生かして、更に工夫をし、発展させているか。
3	表現活動(自分たちの変奏曲を器楽合奏で演奏する)	4	・完成した楽譜をもとに、器楽合奏ができるよう、楽器の選択を行う。 ・完成した変奏曲の発表会をする。 ・自分たちの演奏をビデオで鑑賞する。 ・変奏曲(シューベルト作曲ピアノ五重奏曲「ます」)を聴き、変奏曲の特徴を感じ取る。	・他のグループの変奏曲を尊重した態度で鑑賞しているか。 ・今後の創作活動への意欲を持って鑑賞しているか。

8. 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
・自分自身の感じ方や考え方を生かしながら、友達と協力して変奏曲作りをしようとしている。	・コンピュータを活用し、音色、リズム等を工夫した音楽づくりを通して、音楽表現のイメージを豊かに膨らませている。 ・他のグループの工夫を感じ取っている。	・自分たちの作曲した変奏曲を、楽器の編成を工夫して表現することができる。	・変奏曲の特徴を感じ取りながら、聴取することができる。

9. 本時の学習

(1) 本時の目標

変奏曲の中間発表をし、他のグループのよさや、出された意見や感想を参考にしながら工夫して変奏曲を仕上げる。

(2) 学習指導の展開

学習内容と主な学習活動	IT機器の活用(指導上の留意点)
○ 前時までの学習を振り返り、本時の課題を設定する。	
変奏曲の中間発表をし、さらに工夫して自分たちだけの曲を完成させよう。	
○ 変奏曲の中間発表をする。 ・ コンピュータの演奏を聴き、意見や気づき、感想等を交流し合う。 ○ 他の人の意見を参考にして、変奏曲を完成させる。 ・ コンピュータを使い、工夫する要素(音色・リズム・速さ・拍子・音高等)を見直す。	○ プロジェクタを使い、各グループの変奏曲をホワイトボードに提示し、曲のイメージや特に工夫した点等について説明させた後、作品をコンピュータで再生する。 ○ 意見交流をもとに、新たな要素を加えながら、コンピュータで変奏曲を仕上げていく。 
○ 本時のまとめと次時の学習内容を知る。 ・ 自分たちの変奏曲を器楽演奏することを伝える。 ・ 本時の振り返りをする。	○ 各グループの修正を加えた部分をプロジェクタで提示し、修正前の演奏と聴き比べながら、適切な助言をする。